

分野・専門名： ドイツ語圏文化学

試験科目： 独文解釈

【正解・解答例】

問題

正解・解答例

問1 Körper

問2 衣服は人間に最も身近な一群の物体として、自己の知覚の中に織り込まれており、身体境界が、いわば衣服の最も表層まで拡張しているように感じられるため。

問3 mit

問4 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問5 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問6 verstanden

問7 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問8 雑誌やグラビア誌は、しばしば発行部数が多く、さらに次々と別の読者の手に渡ることで、多くの人々の目に触れることになるから。

分野・専門名：ドイツ語圏文化学

試験科目：独文解釈

【出題の意図】

ドイツ語の一次文献・二次文献を読んで内容を的確に把握するための、基礎的なドイツ語力があるかどうかを問う。

分野・専門名： ドイツ語圏文化学

試験科目： 芸術・大衆文化

【正解・解答例】

(多様な解答があり得る。以下はその一例である。)

(A. Neue Frauen)

第一次世界大戦の敗北を受けてドイツ帝国が崩壊した後に成立したワイマール共和国では、男女同権が初めて認められ、女性たちが社会の様々な分野に進出するようになった。「新しい女」とは、このワイマール時代に出現した、都会的な生き方をする若い女性たちを指す。第一次世界大戦以前の女性たちとは異なり、彼女たちは、短髪で動きやすい服装をし、店員や事務員として働き、スポーツやダンスを楽しみ、性的な自由を享受しているというイメージで語られた。しかし、そのイメージは、多分に雑誌や映画などのマスメディアによって作られた部分があり、実際の社会的立場や経済的基盤は脆弱であった。ワイマール時代の代表的な女性作家イルムガルト・コインの『ギルギー私たちの一人』は、このような「新しい女」を題材にした小説であり、地方都市に住む 20 代の速記タイピスト、ギルギーが、社会の様々な矛盾の中で生き抜こうとする姿を描いている。

(B. Nachkriegszeit)

第二次大戦後のドイツ語圏における「戦後」は、国によって異なる経過を辿った。ナチス支配下にあったドイツは東西に分割され、西側に資本主義体制のドイツ連邦共和国、東側に社会主義体制のドイツ民主共和国が成立、ドイツに合邦されていたオーストリアは永世中立国となった。社会主義体制の東独では、その「戦後」は、ほぼ 1990 年の東西ドイツ再統一まで続いたと考えられる。一方、学生運動が高揚した 1968 年頃まで続いた西独の狭義の「戦後」では、戦争の惨禍や、ホロコースト、冷戦などが芸術の題材となった。この時期に特徴的な芸術ジャンルとしては、「ラジオドラマ」が挙げられる。テレビが普及する以前には、ラジオドラマは、多くのリスナーに同時に語りかけることができ、また聴覚的な実験もできる魅力的なジャンルだったのである。その代表作には例えば、一連の悪夢を描いて、心地よい現実の裏側に目を凝らすことを求めたギュンター・アイヒの『夢』が挙げられよう。

(C. Musikdrama)

「楽劇」とは、音楽と劇との一体化を目指したオペラの一形式であり、19 世紀のドイツを代表する作曲家リヒャルト・ワーグナーが創始した。従来のオペラとは異なる総合芸術としての「楽劇」は、音楽が途切れず流れるように進行すること（無限旋律）、人物の感情や状況を表すライトモチーフが導入されたこと、またオーケストラによる表現の幅が広がったことなどをその特徴とする。その代表作には、『トリスタンとイゾルデ』や『ニーベルング

の指環』がある。前者においては半音階進行の多用や無調が見られ、それは 20 世紀以降の音楽の誕生へと結びつくことになった。また、4 部作からなる後者では北欧神話とジークフリート伝説がそのモチーフとなっており、ドラマとしての一貫性が実現した。その 2 部作目『ワルキューレ』の中の一曲「ワルキューレの騎行」は、今日単独で演奏されることも多い。そのようなワーグナーの楽曲は、ブルックナーなど後の作曲家に多大な影響を与えた。

(D. Romantik)

市民階級の台頭により音楽を鑑賞する人口が拡大し、また産業革命によりピアノの性能が向上したことでより華麗な演奏が可能となった 19 世紀、ドイツやオーストリアを中心にして「ロマン派」と呼ばれる音楽様式が広まった。それ以前の、均整のとれた形式や理性的で客観的な表現が特徴である「古典派」とは異なり、「ロマン派」では、半音階、不協和音、転調などの技法が用いられながら、理性よりも人間の持つ感情を重視し、合理的な表現よりも情緒的で主観的な表現に重きが置かれた。主なロマン派の作曲家としては、シューベルト、ショパンなどが挙げられるだろう。シューベルトは「歌曲の王」と呼ばれ、歌曲集『冬の旅』など、美しい旋律や豊かな和声を用いて詩の内容を音楽で表現した。また、ショパンが作曲した曲は、『幻想即興曲』や『舟歌』など繊細で美しい叙情性を持つ、感性あふれる旋律が特徴であり、彼はしばしば「ピアノの詩人」と評される。

(E. Wien)

ウィーンは、西ヨーロッパと東ヨーロッパの境界線をなすオーストリアの首都として、地政学的にも重要な役割を果たしてきたが、19 世紀から 20 世紀にかけては、演劇や音楽、絵画、建築、工芸、デザインなどで、それぞれの分野を超えた新しい芸術を求める動き、「世紀末芸術」が黄金期を迎えた。例えば、グスタフ・クリムトはその代表的な画家である。クリムトの代表的な作品としては、『接吻』などが有名であるが、その作品には金箔がふんだんに用いられ、衣服には幾何学模様や花をモチーフにした華やかな装飾性にあふれる手法が見られるなど、世紀末の芸術運動であるユーゲントシュティールやラヴェンナのモザイク画、さらには日本美術などの影響が認められる。他方、クリムトの作品には、命、愛と幸福、女性とその官能性、死などのモチーフも多く見られ、同時代の文化・芸術運動を考察する際には欠かせない存在である。

分野・専門名：ドイツ語圏文化学

試験科目： 芸術・大衆文化

【出題の意図】

ドイツ語圏の芸術・大衆文化に関する基礎的な知識や、自分の研究テーマと結びつけて論じる論述力があるかどうかを見る。

分野・専門名： ドイツ語圏文化学

試験科目： 独作文

【正解・解答例】

問題 I

- 1) 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

- 2) 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問題 II

修士課程入学後の研究計画書が、ドイツ語で的確にまとめられているかどうか、特に以下の点について確認する。

- ・テーマは自由だが、ドイツ語圏文化学での研究としてふさわしいものであるか。
- ・文章の正確性、論理性（論理展開の妥当性）、文章構成の適切さ、文法的に正しいかどうか、表現の適切さなどを確認する。

分野・専門名： ドイツ語圏文化学

試験科目： 独作文

【出題の意図】

問題Ⅰ

日本語で書かれた文章について、そこで得られる情報をドイツ語で表現することができるかどうか問われる。その際、文の構成力や文法事項についての基本的知識、語句の適切な使用がなされているかどうか問われる。

問題Ⅱ

自分の考えがドイツ語で的確に表現されているかどうか、適切な語句や表現のみならず、文法の基礎的知識が正確に表現されているかどうか問われる。また、希望する研究テーマが相応しいものであるかどうか、それが読み手に伝わるように論理的に正しく表現されているかどうか問われる。

分野・専門名：フランス語フランス文学

試験科目：

【正解・解答例】

I

- 1) 中世フランス文学の知識と、その文化的背景の理解の程度を、論述文を通じて測定する。宮廷風恋愛が自分よりも身分の高い女性を対象とすること、騎士と奥方の関係には、家臣と君主のそれと類縁性が見られること、中世の抒情詩の多くのテーマが、宮廷風恋愛と結びついていること、などが解答のポイントとなる。
- 2) 記憶というのは文学の根幹に関わる問題である。ほとんどの文学作品は、個人的記憶（例えばルソーの『告白』以降の自伝文学の伝統）や集団的記憶（歴史的出来事を主題に取り込む作品、ユゴーの歴史小説はその一例）、あるいはその双方に基づく記録（口承、あるいは文字テキスト）に関わる側面を持つ。主題の扱いだけでなく、記憶をいかなる形式・媒体・語りの構造で表現するかという点も論の焦点となりうる。古代ギリシア・ローマの修辞学における記憶術の技法が物語構築に影響を与えたとみなす見方もある。哲学でもプラトン以降扱われるテーマであり、近代ではベルクソンの持続概念、リクールの記憶論などに展開している。フロイトやユングが扱った無意識と夢の問題とも関わりうる。意識と時間を主題にした作品としては、プルーストやネルヴァルの作品が挙げられる。時間の非直線的表象は、20世紀のヌーヴォー・ロマン（例えばデュラスの『愛人』の螺旋的時間構造）においても重要な探究対象となった。例として挙げたのは散文作品であるが、戯曲や韻文作品についても多くの例が挙げられる。
上記は考えられうるアプローチのごく一例であり、求められるのは、解答者の独自性、フランス文学についての理解と知識、そして論理性である。複数の時代の作品について論じることが理想的ではあるが、1つの作品（あるいは作家）に絞った上で考察を深め、文学史的な展望のもとに、論じることが評価される。
- 3) フランス語の話し言葉と書き言葉の違いを、文法、語彙、表現方法といった多角的な視点から具体的に説明できるかどうかを測定する。書き言葉にしか現れない動詞時制（単純過去など）、書き言葉における倒置疑問の多用、話し言葉における否定の ne の省略、話し言葉における間投詞やオノマトペの多用、話し言葉におけるフィラーの多用などの現象をなるべく多く取り上げ、それらを体系的に整理して論述することが解答のポイントとなる。

II

A~~1~~ (解答例)

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

B) (解答例)

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

分野・専門名：フランス語フランス文学

試験科目：

【出題の意図】

I

- 1) 中世フランス文学の知識と、その文化的背景の理解の程度を、論述文を通じて測定する。
- 2) フランス文学史についての幅広い知識と、自らの研究に結びつけた独自の見解、また論の構成力と記述能力を問う。
- 3) フランス語の話し言葉と書き言葉の違いを、文法、語彙、表現方法といった多角的な視点から具体的に説明できるかどうかを測定する。

II

- A) 中世フランス文学の特性を論じた文章を題材とし、フランス語を正確に理解する能力と文法や語彙の知識を測定する。
- B) 遂行的発話の特性を論じた文章を題材とし、フランス語を正確に理解する能力と文法や語彙の知識を測定する。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学評釈[一]

【正解・解答例】

問一

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問二 薄雲巻。明石の君は、明石を離れ、母尼君、姫君と大堰の邸に身を寄せている。唯一の女子である明石の姫君の将来の入内を計画している光源氏は、実母明石の君の身分の低さが傷となることから、紫の上の養女として育てることを提案する。娘の将来を願い、

泣く泣く姫君を光源氏に託す場面である。薄雲巻では、明石の君母娘の別れと、藤壺の死が重要な話題として語られる。

分野・専門名：日本文学

試験科目：日本文学評釈（一）

【出題の意図】

問一 古典文法・語彙・和歌の知識を踏まえ、正確に古典の文章を読解し、物語の内容を把握できる学力を問う。また古文の文章をわかりやすい現代語に訳する能力を問う。

問二 日本の代表的な古典作品である『源氏物語』の基本的な内容を把握していることを問う。

分野・専門名：日本文学

試験科目：日本文学評釈[二]

【正解・解答例】

問一

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問二

後漢時代、市場で薬を売る老人（壺公）は、商売が終わると壺の中に飛び込んで姿を消していた。役人の費長房が高楼からこの奇異な光景を目撃し、酒と干し肉を持参して老人にもてなしをした。老人は、翌日長房を壺の中の世界に招待した。壺の中には美しい宮殿があり、上質な酒と料理が豊富に用意されていた。二人は共に飲食を楽しんだが、外に出ると元の小さな壺に戻っていた。老人は長房にこの体験を他言しないよう戒めた。その後、長房は仙術を学ぶため老人と山中で修行したが成就せず、故郷に帰る際に老人から特別な符を与えられ、地仙となって鬼神を支配する力を得た。

分野・専門名：日本文学

試験科目：日本文学評釈[二]

【出題の意図】

江戸時代まで日常的に用いられた「くずし字」（草書体・行書体で記された仮名・漢字）を正しく翻刻し、文学作品の写本や版本の内容を正確に読解することができるか。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学史[一]

【正解・解答例】

なし

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学史[一]

【出題の意図】

古代から近現代にいたる、日本文学史および書誌学に関する幅広い知識を問う。自身の設定したテーマに沿って、明快に論述できる学力を問う。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学史[二]

【正解・解答例】

- ① 『万葉集』巻五所収の、山上憶良作の長歌および本歌からなる挽歌。晩年、大宰帥となった大伴旅人は妻を伴い筑紫に下るが、間もなく妻は世を去る。妻を失った旅人の立場で筑前守憶良が詠んだ挽歌であり、旅人に献呈された。これを契機に二人の交流がはじまり、いわゆる筑紫歌壇が形成される。直前の悼亡文・詩に対して和歌であることを強調して「日本」と称した。
- ② 折口信夫（釈超空）の小説。二上山に葬られた大津皇子（滋賀津彦）の靈魂が復活する。皇子の靈に感応した藤原南家の郎女は家を出奔し、当麻寺に至る。郎女は、皇子の高貴な姿を蓮糸で曼荼羅に織り上げる。天平時代を背景に、天武皇子として卓抜な資質に恵まれながらも刑死した大津の悲劇と、当麻寺曼荼羅にちなむ中将姫伝承を結び付けた、幻想的な作品。
- ③ 鎌倉時代、藤原定家が藤原良経の命により編纂した物語秀歌選。『百番歌合』と『後百番歌合』の計二百番からなる。前者は『源氏物語』と『狭衣物語』の和歌各百首を左右に歌合形式につがえたもの。後者は『源氏物語』百首と『夜の寝覚』『浜松中納言物語』その他の物語の和歌百首を左右につがえる。定家の物語和歌の好みがかげえ、また散逸した物語の内容を知る上での貴重な資料でもある。
- ④ 平安時代初期の歌人。阿保親王（平城皇子）の子。業平の兄。『古今集』離別の「立ち別れいなばの山の峰におふるまつとし聞かば今帰り来む」は『百人一首』にも選ばれ有名である。主催した『在民部卿歌合』は最初期の歌合であり、『古今集』成立前夜の和歌振興の一翼を担った。政治上の理由で一時須磨に退去していたこともあり、「わくらばに問ふ人あらば須磨の浦に藻塩たれつつわぶと答へよ」（古今・羈旅）は、その時の作である。須磨流謫は『源氏物語』の光源氏のモデルともなり、謡曲『松風』の素材ともなった。

- ⑤ 江戸後期天明年間（1781-89）は狂歌史上の黄金時代であった。それまで狂歌の中心は上方にあったが、明和年間に江戸山の手で新たな運動が起こった。内山賀邸を中心とした唐衣橋洲、四方赤良（大田南畝）らの武士・町人による少数グループから始まり、機知滑稽を好む江戸市民に広まって急速に発展した。天明期には狂歌書が大量刊行され爆発的流行となったが、これは質的低下の始まりでもあった。寛政改革により武士作家が退陣し、町人中心の職業化が進む中で天明狂歌は終焉を迎える。
- ⑥ 『和字正濫鈔』は僧契沖が著した五巻五冊の仮名遣い書。契沖は『倭名類聚抄』以前の文献において、いろは四十七文字の用法に混乱がないことを発見し、これを仮名表記の基準とした。「い」「ゐ」「ひ」「を」「お」「ほ」「え」「ゑ」「へ」等の項目下に、その仮名を含む語をいろは順に配列し出典を注記した。中世以来権威であった藤原定家の仮名遣いが基準不明確だったのに対し、本書は明確な根拠を示したため国学者に広く受け入れられ、後の歴史的仮名遣いの基礎となった。
- ⑦ 読み本系に分類される『平家物語』の古写本の一つ。一般的な平家物語が和漢混淆文で書かれるのに対し、本書は真名（漢字）で記され、千葉氏・梶原氏・熊谷氏など坂東平氏の武士団の活躍を詳述する点が特色である。巻1上・巻1下・巻5・巻8上・巻8下の5冊が現存し、内閣文庫にのみ伝わる唯一の伝本。作者・成立年は未詳だが、巻1下末の識語により建武4年（1337）書写本を文和4年（1355）に再写したことが判明。成立時期については13世紀後半から14世紀前半の諸説がある。
- ⑧ 藤原定家が選んだ秀歌集で、百一人の歌人から各一首を収め、作者名と勅撰集名を付す。成立は文暦二年（1235）以前とされ、後鳥羽院・順徳院が含まれないため、百人一首より先行すると考えられる。定家の日記『明月記』の記事とも符合し注目される。百人一首と九十七首が共通し、異なる歌人や歌もある。百人一首が時代順で配列するのに対し、百人秀歌は歌合形式を重視した構成となっている。

分野・専門名： 日本文学

試験科目：日本文学史[二]

【出題の意図】

古代から近現代にいたる、日本文学史および書誌学に関する幅広い知識を問う。

分野・専門名： 中国語中国文学

試験科目： 専門科目

【正解・解答例】

大問 1

a. “受事主语句”

【解答例】

“衣服都洗干净了。”のように動作・行為の受け手が主語となった文。視点が受け手の側に置かれることから「意味上の受け身文」などとも呼ばれるが、この場合には受け手が主題化された形となっており、通常の受け身文とは性格を異にする。

b. 形容詞句

【解答例】

形容詞が中心語となったフレーズのこと。その構造として「修飾構造(例: 非常高兴)」、「動補構造(例: 高兴得很)」や「並列構造(例: 又便宜又好吃)」などが挙げられる。また、形容詞句は形容詞の場合と同様に、「主語、目的語、述語、連体修飾語、連用修飾語、補語」といった各種文成分になることができる。例えば“非常认真地工作”は形容詞句が連用修飾語となった例である。

c. 『玉篇』

【解答例】

梁の顧野王撰。『説文解字』の部首分類を継承しつつ、部首の配列には『爾雅』に見られるような類概念を導入した。全ての見出し字に反切を付し、字義は主として経傳の注や『説文解字』などの引用により示している。説義が煩瑣だったため大幅に削減され、簡素化された一方、増字され、宋代に『大廣益會玉篇』という形で集大成された。

d. 鄭玄

【解答例】

後漢の學者。『毛詩故訓傳』に注を附した(鄭箋)ほか、『周禮』、『儀禮』、『禮記』に附注するなど、後の漢唐注釋學の基礎を築いた。

e. 田漢

【解答例】

長沙出身。1910-20年代に日本に留学し、東京高等師範文科で学び、近代劇、映画に傾倒し、郭沫若らと知り合い創造社結成に参加、留学中は主要な同人として活躍した。帰国後も佐藤春夫や谷崎潤一郎らと交友し、また南国劇社を組織し『南国』を創刊するなど中国近代劇運動の推進に大きく貢献した。1930年代には左連に参加し、彼が作詞した「義勇軍行進曲」は中華人民共和国の国歌に指定された。人民共和国建国後は文化部や戯劇関係の重職を歴任したが、文化大革命において文化界の主要な打倒の対象とされ、獄中死した。改革開放後、名誉回復され、高く再評価された。

f. 新感覚派

【解答例】

新感覚派は1920年代のモダニズム文学の流れを受け、1930年代上海モダン都市文化を描く文学思潮を指す。横光利一ら1920年代日本の新感覚派の影響を受けた作家もあり、短い文、畳みかけるフレーズや単語の連続、意識の流れなど実験的な文体をしばしば用い、ダンスホールやデパートなどを舞台に都会の消費文化や風俗を描いた。上海の大学で学んだ青年作家たち、施蛰存、穆時英、劉呐鷗らが代表的である。

g. 正末

【解答例】

元雜劇の角色(脚色;役柄)の一つで、男性の主役。この名稱は宋雜劇・金院本の「末泥」に由来すると考えられている。元雜劇では、一つの作品内では正末(または正旦)のみが歌唱を行い(一人獨唱)、正末が歌唱を行う作品を末本と呼ぶ。

h. 『今古奇觀』

【解答例】

明末に刊行された短編白話小説集。抱甕老人編。三言(『喻世明言』『醒世恒言』『警世通言』)・二

拍(『初刻拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』)から四十篇が選ばれている。清代には、源流となった三言二拍よりも『今古奇觀』の方が廣く流行し、江戸時代の日本文學にも大きな影響を及ぼした。

i. 宋玉

【解答例】

戦国時代末期楚の国の賦作家。その作風は屈原を引き継いでおり、『楚辞』に作品がおさめられる他、神女との交歓を描いた「高唐賦」、自分が美男子でも好色ではないことを弁明した「登徒子好色賦」などの作品が『文選』におさめられる。

j. 三蘇

【解答例】

蘇洵・蘇軾・蘇轍の父子三人をまとめて指す言葉。蘇軾・蘇轍兄弟は若くして科挙に上位合格し、その父親として蘇洵は名士として時の文壇に迎え入れられた。蘇軾は、北宋代きっての詩人であり、弟の蘇轍は兄と仲がよく、兄との唱和の詩を多く残す。三人とも唐宋八大家に数えられる。

大問 2

2A

(1) 音声によって伝達される話し言葉と文字によって伝達される書き言葉それぞれの特徴について、両者の違いを踏まえつつ、一般言語学的な知識を用いた記述ができるかを問う問題である。中国語では“男、銀”のように語として単独で使用できないものが、書面語では使用が可能となる。また禁止表現では“请勿”が用いられるなど、中国語学習者は書面語に関して、別途学習する必要に迫られる。こうした状況については「語彙、文法、表現」といった多角的な側面からの言及が可能である。

(2) “怎么”の方法を尋ねる用法と原因・理由を尋ねる用法の使い分けについては、否定形で用いることが可能かどうか、形容詞や主語をその後に置くことができるか否かといった点は押さえておきたい。原因・理由を尋ねる疑問詞“怎么”と“为什么”はともに日本語では「なんで」と訳されるもので、その使い分けは中国語教育においてもしばしば取り上げられる。“怎么”については自問や反語など、必ずしも相手に回答を求めるわけではない状況下でも用いられる。一方、客観的事象について、相手に理由を求めるような状況下においては、“为什么”が選択

される。このように、分析の際には事柄に対して抱く発話者の認識に着目することにより、両者の相違が比較的明確に捉えられる。“怎么”と“为什么”の両者が互いに言い換えが可能なケースも含めて、上記事象に言及する際に、それぞれ適切な例を示すことができるかといった点も評価の対象に含まれる。

2B

(1)

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

(2) ①『論語』学而篇の「巧言令色鮮矣仁。」を典拠とする。

②『論語』子路篇を典拠とし、許慎が『説文解字』自叙末尾においてこのことばを用い、分からないことについては憶測を述べることを慎しむという學問的良心を表明している。

2C

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

2D

(1)

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

(2) 問一:

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

問二: 筆記という資料の性質についての正確な知識と、自分の研究との関わりが把握できているかについて論理的に書けているかによって採点する。

分野・専門名： 中国語中国文学

試験科目： 専門科目

【出題の意図】

大問 1

中国語学・中国文学に関する基礎知識を測る。

大問 2

2A

(1) 個別の言語研究を行う前提として、一般言語学の知識は欠かせない。その上で、研究対象となる中国語という個別言語に当てはめた場合、どのようなケースが該当するのかを問うことにより、中国語学に関する専門知識に基づいた考察力を測る。

(2) 本問は前半では 1 つの語の意味的な使い分けを通して、また後半では当該の語と関連する類義語の用法との異同を通して、中国語の文法知識を問うことを主目的とし、知識と表現力を総合的に評価する論述式の問いとなっている。

2B

中国古典語学において必要な専門知識を問う。

2C

近現代中国文学に関する現代中国語の文章を、文脈を把握しつつ、正確な日本語に翻訳する力を問う。

2D

(1) 中国古典(白話)の語彙・語法の知識と、古典文学(白話)の文章を正確に理解する力を測定する。

(2) 中国文学史に関わる資料について、専門的な知識を持っており、読解ができるかを問う。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 英語

【正解・解答例】

- (1) 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。
- (2) 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。
- (3) 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 英語

【出題の意図】

本英語問題では、名古屋大学大学院人文学研究科哲学分野・専門博士前期課程に入学して、英語で書かれた哲学に関する学術誌や書籍を読み、それらを的確に読解し、哲学的な意義を把握する能力を持っているかを問う。具体的には、20 世紀の哲学者たちの情動や気分について考察に関する文章を題材とし、英文を的確に読解する力と文法や重要な語彙の知識を測定する。

分野・専門名： 哲学

試験科目： フランス語

【正解・解答例】

1. 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。
2. 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。
3. 著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

分野・専門名： 哲学

試験科目： フランス語

【出題の意図】

1. 基本的なフランス語文法とともに、スピノザの「コナトゥス」概念の意味を知っているか、あるいは知らずともそれを予測・想像できるかを試す。
2. 同上
3. 文脈の理解度とともに、要点を適切に抜粋し、整理できるかを試す。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 専門問題

【正解・解答例】

この問題に唯一絶対の正解はないが、優れた解答は以下の観点から総合的に評価される。

知識・理解力：

参照する哲学的立場や議論の核心を正確に捉え、その思想がどのような文脈や問いから生まれたのかを理解した上で、適切に説明できているか。単なる用語の羅列や受け売りの説明ではなく、内容を自らの言葉で咀嚼し、再構成できているかが問われる。

分析・批判的思考力：

参照する哲学的立場を、その長所や短所、歴史的な文脈や現代的意義など、多角的な視点から分析・検討できているか。単に学説を要約するだけでなく、その議論の前提となっている問いや論理構造を批判的に捉え、テーマに対する深い洞察を示せているかを評価する。（複数の立場を比較検討する場合も、この基準が適用される。）

論理性・構成力：

記述されている内容について、その根拠や理由が明確に示されているか。文章全体がテーマに即しており、部分間のつながりが論理的で、矛盾や飛躍のない一貫した議論となっているかを重視する。

表現力：

哲学的思索を、曖昧さを排した明晰かつ的確な語彙と文章で表現できているか。複雑な概念を平易な言葉で説明したり、専門用語を正確に用いたりする言語運用能力を評価する。

分野・専門名： 哲学

試験科目： 専門問題

【出題の意図】

本問は、哲学における根源的なテーマである「他者性」について、特定の学説の知識量だけでなく、歴史的・現代的を問わず様々な哲学的議論を主体的に理解し、それらを批判的に考察しながら自らの見解を論理的に構築・表現する能力を総合的に評価するものである。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学（問題1）

【正解・解答例】

解答のポイント

クリエンテス

・クリエンテスは、パトロヌス（庇護者）によって庇護される被庇護者を意味する。両者は、庇護するもの・庇護されるものという関係性だけではなく、共に何等かの便宜をとり図る相互扶助関係が存在する。たとえば、クリエンテスがパトロヌスの商売の店舗を任されていたり、選挙の際に応援に回る一方、パトロヌスは経済的・社会的支援を行っていた。

・古代ローマにおいてクリエンテスは朝の伺候（*salutatio*）をパトロヌスに対して行い、その結束が日々維持された。

航海

・航海が作品の主題となるものにはどのような作品があるか（例：『オデュッセイア』、『アエネーイス』、『アルゴナウティカ』）。

・それぞれの作品中で、航海がなぜ必要とされるのか。例えば、『オデュッセイア』においては故郷への帰還のため、『アエネーイス』においては新国家建設のため、など。

・西洋古典文学作品において航海を扱った作例がどのように後世の西洋古典文学作品に影響を与えたか。

酒

・酒にまつわる神にはどのようなものがあるか（例：ディオニュソス、バックス）。

・神話や文学作品で酒がどのようなコンテキストで登場するか（例：犠牲、誓い、吊い、哲学的議論、社交）。酒が犠牲や誓い、吊いの場で登場する作例にはどのようなものがあり、具体的にはこういった場面で用いられているか。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学（問題1）

【出題の意図】

西洋古典世界の文学作品や社会を理解する上で重要な要素となるトピックを理解しているのか、そしてこれらのトピックがどのような作品やコンテキストで登場し、いかなる役割を担っているのかという点を理解しているか問う。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学（問題2）

【正解・解答例】

解答のポイント

「ギリシア語・ラテン語における分詞の独立的用法」

・意味の上で状況や事情を示すための用法を分詞の独立的用法といい、主文の状況を示す副文の代わりとして用いられる。

・文脈に応じて「時、原因、条件、譲歩、様態」の意味を有する。

・ギリシア語では、独立属格を用いることが多く、主語となる名詞または代名詞が属格に置かれ、分詞も属格となる。分詞が対格で独立的に使用されることもあり、この場合は分詞が非人称的に扱われたり、不定詞を主語とする。

・一方のラテン語では、絶対奪格（独立的従格も可）と呼ばれ、主語となる名詞とそれを修飾する分詞や名詞などは奪格に置かれる。

など

「ギリシア・ローマの喜劇」

・ギリシア、ローマの喜劇の作例の代表的な著者・作品に言及すること（例：アリストパネース、メナンドロス、プラウトゥス、テレンティウス）。

・大ディオニューシア祭において悲劇の競演は前 534 年頃以降に行われるようになったが、喜劇の競演が加えられるようになったのは前 487 年頃とされる。

・現存最古の喜劇作品はアリストパネースによるものである。アイスキュロスの最古の悲劇作品以降、古典期においては、ソフォクレスやエウリピデスといった悲劇作家が排出されたが、ヘレニズム期において劇作は新喜劇（メナンドロス）が中心的役割を担った。

・もともとは豊穡祈願の祭りでの行事に起源があるとされる。話の内容としては、人々の実生活に根差した滑稽な事柄が主題となる。

など

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典学（問題 2）

【出題の意図】

ギリシア語・ラテン語特有の文法事項を理解しているのかを問う。また、劇作の変遷について理解しているか否かを問う。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 専門英文の読解

【正解・解答例】

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

(永田康昭、兼利琢

也、岩崎務訳『キケロー選集 10 善と悪の究極について』岩波書店、2000年、68 頁、一部改変。)

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 専門英文の読解

【出題の意図】

英語で「様々な」という意味を持つ「various」の元となった、ラテン語の「*varius*」が、どういった意味なのかについて書いた著書の一部である。言葉が持つ意味合いの変遷は古典語においてしばしばみられるが、この現象を正確に捉えているか、そして名前が登場する著者の述べるところを理解しているかを見る。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典語（ギリシア語）

【正解・解答例】

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送信について著作権者より承諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

分野・専門名： 西洋古典学

試験科目： 西洋古典語（ギリシア語）

【出題の意図】

古典ギリシア語で書かれた平易な文章を、辞書の力をかりて読解できるかどうかを見ることで、西洋古典学を専攻する上で必要な能力を有するかを測る。